

ごあいさつ

明るい光があふれる海辺の神奈川県立近代美術館から、古い歴史を抱きながら賑やかな活気を漂わせる大阪の街で新しい歴史を刻んでいる国立国際美術館に、4月1日に着任しました。

美術館の役割は、変貌していく社会の中で、ある部分は急速に、ある部分はゆっくりと変わっていきます。そんな変化の渦中において美術館は何をすればいいのか。人々は美術館に何を望んでいるのか。また社会のめまぐるしい流れに巻き込まれず美術館は何を大切にしなければならないのか。どこの美術館にいようと、美術が語ってくれることの豊かさを信じて、美術館に共通するそんな課題をいつも考えています。

一方で美術館は、ひとつひとつ違った個性をもっています。その個性は、展覧会の傾向、コレクションの内容、種々の活動の方向、そして活動を担う人ひとりひとりの個性の組み合わせから織りなされます。国立国際美術館の個性はどんなものだろうか。そのことを見極めて、中之島に移ってからまだそう時を経ていないこの美術館の活力をさらに高める方向を探っていきたいと思っています。

いま東北地方では、いくつかの美術館が甚大に被災し、多くの美術館では日常生活の復興を緊急の必要とするため大地震の余波を少なからず蒙っています。また、原発の被災が原因となって、各種の展覧会に不可欠の諸外国からの作品借用も困難になり、地震の余波は、国立国際美術館のこれからも影を落とすと予想されます。しかし翻ってみれば、この状況は、美術の力は何だろうかともう一度考え直すいい機会だとも思います。

美術自体の力、美術館の役割、つねにそれを念頭に置いて人々に呼びかけ、人々に援けられながら国立国際美術館の進む適切な道を見出すことが、館長の責務と銘じています。

平成23年4月1日

国立国際美術館長 山梨 俊夫